

福岡県リサイクル総合研究事業化センター3Rメンバーズ (略称:ふくおか3Rメンバーズ) 設立趣意書

近年、環境問題の性質は大きく変容し、気候変動やプラスチックごみによる海洋汚染など、地球規模の危機であると同時に地域課題とも密接に関わる問題が生じています。

平成27年には、国連サミットにおいて持続可能な開発のための目標(SDGs)が、令和元年6月には、G20サミットにおいて「G20海洋プラスチックごみ対策実施枠組」が採択されるなど、国際協調の取組みが求められています。

また、欧州では、消費された資源を再生・再利用し続ける循環型の経済モデル「サーキュラーエコノミー(CE)」への転換に向けた動きが活発化しており、環境対策だけではなく、新ビジネスの創出やグローバル経済戦略の一環としても注目されています。

わが国では、平成30年に策定された第4次循環型社会形成推進基本計画において、環境的側面、経済的側面、社会的側面を統合的に向上させていく必要があるとして、ライフサイクル全体での資源循環や地域循環共生圏の形成に向けた目標が示されました。

福岡県においては、平成13年に、循環型社会の実現に向け、産学官民の共同研究及びその実践を支援する中核的な拠点として、リサイクル総合研究センター((現)公益財団法人福岡県リサイクル総合研究事業化センター(以下「センター」という。))を設立し、これまでに、123テーマの共同研究に取り組み、センターを中心とした産学官民のネットワークを構築するとともに、32テーマが事業化・実用化され、福岡県のリサイクル産業の育成及び循環型社会の形成に寄与してきました。

今後のリサイクル産業は、資源循環ビジネスとして大きく発展するチャンスであり、IoTやAIなどの新たな分野の技術を活用し、リサイクル技術・システムを高度化させ、経済合理性を高めていくことが重要となってきます。

また、消費活動や生産活動に伴う廃棄物の発生、回収、再資源化、再生資源の利用等の各段階全てを繋げた、効果的・効率的なシステムを構築することが必要であり、動脈・静脈に関わる全ての企業、研究者、技術者が連携して取り組むことが必要不可欠となっています。

そのため、センターを中心とした従来のネットワークを拡大・強化し、異業種間交流の促進により、互いに連携して資源の消費抑制と循環利用に取り組み、循環型社会の形成に資することを目的に、「ふくおか3Rメンバーズ」を設立します。

本会は、3Rに関わる産学官民のネットワーク組織として、会員とセンター及び会員相互の連携を強化し、共同研究や新ビジネスの創出を活性化し、ひいては地域産業の発展と循環経済への転換を目指します。

令和2年 1月17日

発起人一同

発起人

(産) (50 音順)

イオン九州株式会社	代表取締役社長	柴田 祐司
株式会社カステラ本家 福砂屋	取締役副社長	殿村 禎三
柴田産業株式会社	取締役会長	柴田 功治
株式会社新菱	取締役社長	江藤 俊郎
トータルケア・システム株式会社	代表取締役	長 武志
トヨタ自動車九州株式会社	取締役車両本部長	百瀬 英典
日産自動車九州株式会社	代表取締役社長	荒井 孝文
日本磁力選鉱株式会社	代表取締役社長	原田 信
株式会社ブリヂストン	九州生産本部長兼久留米工場長	入江 智祐
三井金属鉱業株式会社	金属事業本部 執行役員金属事業部長	中山 恵造
三菱マテリアル株式会社	執行役 環境・エネルギー事業本部長	山口 省吾

(学)

国立大学法人九州大学	総長	久保 千春
国立大学法人九州工業大学	学長	尾家 祐二
公立大学法人北九州市立大学	学長	松尾 太加志
学校法人福岡大学	学長	朔 啓二郎

(行政機関等)

福岡県	知事	小川 洋
北九州市長	市長	北橋 健治
大牟田市長	市長	関 好孝
公益財団法人福岡県リサイクル総合研究事業化センター	センター長	中村 崇
公益財団法人福岡県リサイクル総合研究事業化センター	名誉センター長	花嶋 正孝